

家畜損害防止関連情報

◆ 第7回 牛飼いは虫飼い

～ルーメン恒常性維持が最大のポイント～

“牛飼いは虫飼いだ”と、ある酪農家から言われて、なるほどいい言葉だと思いました。虫とはルーメン原虫のことです。ルーメンの恒常性維持が酪農にとっては最大のポイントになります。ルーメンの恒常性を維持するための全泌乳期を通してのポイントは10項目あります。

①	粗飼料を先行給与してルーメンマットを形成してから濃厚飼料を給与する。
②	1回の濃厚飼料の給与量は4キロを限界とし、濃厚飼料の給与間隔は4時間空けるのが理想的。
③	分娩(ぶんべん)後の濃厚飼料の増給スピードは1日に300～500グラムが限界。
④	バイパス性飼料の多給はルーメン発酵を抑制するので過給しない。
⑤	カビはルーメン微生物に悪影響(カビた飼料は与えない)。
⑥	水不足はルーメン微生物に悪影響(給水能力は最大需要時にあわせる)。
⑦	飼料の頻繁な変更は百害あって一利なし(旬の物は与えない)。
⑧	一度崩壊したルーメン微生物叢(そう)はなかなか回復できない。
⑨	飼料の変更にルーメン微生物叢が完全に対応できるのは、飼料内容が安定してから3～4週間。
⑩	暑熱期はルーメン温度も上昇してルーメンが不安定になるので、飼料変更をしない。

これらを常に心がけて牛群管理をするだけで、牛群は素晴らしく改善します。

逆を言えば、牛飼いとして当たり前のことを実行できていない人たちが相当数いるということです。基本的なことを忠実に行うというプロとして当然のことが、これからの時代の生き残り戦略の基本になります。

農家ごとに事情は異なってくるでしょうが、基本を変えることはできないので、変えられるところから直していきましょう。

